

優秀賞（灘 飯山怜央さん）隠蔽人類

デザインのアイデアが秀逸である。当コンテストの歴史の中でも初めて見られた手法であり、奇しくももう一つの優秀賞で同じアイデアがあったが、課題図書の特徴をこれ以上ないほどに際立たせ、どうしても目がいってしまう訴求力がある。それ以外のデザインはあえて抑え、この造形の特徴を前面に押し出しているのも計算されているところか。キャッチコピーがないが、「光文社文庫」が微妙に曲がっているところなども図書の印象を誘導しているようで憎い工夫である。

優秀賞（岐南工業 梶川信さん）隠蔽人類

POP としてはやや分厚いようにも見えるが、秀逸なデザインが際立っている。このアイデアは、驚くべきことに今回もう一つの優秀賞に同じ手法が見られたが、これまでに見られなかったものである。書名の配色は文庫本のタイトルそのままであるが、極めて目につきやすいものを利用して、しかもうるさすぎず、絶妙なバランスにも思える。イラストもおどろおどろしい印象が際立っており、周囲の風景まで整合的に作成されている。大変完成度の高い力作である。

優秀賞（川崎市立川崎 米森 涼華さん）二平方メートルの世界で

透明な素材を利用する手法はこれまでもかなり見られたが、本作は完全に透明化した。突き抜けたアイデアに、しかし周囲の装飾が物悲しく、一目で引き込まれる構成となっている。青と白の配色が極めて効果的である。青いバラは昔は「不可能」を意味していたが、今では「奇跡」「夢がかなう」を表すものであり、知る人にはそれも魅力であろう。選んだ言葉「たまたまわたしだった。」も刺さる。紙の切り方や文字の形が若干気になるころではあるが、全体の雰囲気が大変素晴らしい。

優秀賞（福江 山本零士さん）超文系人間のための統計学トレーニング

針金を用いた造形は今回も多少あり、また細い紐を利用して動きを作り出すアイデアもよく見られるものであるが、本作は両者を併用して、ぶらぶらした動きはありながら形はかなり保たれる工夫をした。作りが大変雑であり、文字も丁寧とはいいがたく、使用された紙もペラペラであるが、なにしろこの微妙な動きと立体感が「統計を操る」というコンセプトに絶妙にマッチしており、アイデアの勝利であると言える。見て楽しい作品である。

優秀賞（土岐商業 日下せつさん）二平方メートルの世界で

病室と窓を主題とした作品が多い中で、本作はかなり病院という空間の実際の味気無さ、闘病の過酷さといった、厳しい側面が表わされているように見える。部屋の角部分を窓とともに見せ、また壁の汚れも写実的に表現し、そこだけでは重苦しい印象となるが、そこにキャッチコピーが効果的に飛び込んでくる。窓の外の雲は樹脂状の粒を重ねてあるが、その微妙な立体感も素晴らしい。2つある窓の色の違いも計算されたものか。

優秀賞（津島北 富田万緒さん）二平方メートルの世界で

若干の厚みの中に、かなりの奥深さを感じさせる造形が大変うまい。白を基調とし、青と赤を対比させつつも融合させるような配色、窓の内部の造形の変化は、落ち着いた印象の中にも緊張を生み出し、絶妙である。タイトルとキャッチコピーの文字は手書きであるが、大変統一的に、丁寧に書かれており、字体のポップさも相俟って、これまた安定と変化が感じられる。バランスに優れた作品である。

優秀賞（津島北 杉木萌衣さん）二平方メートルの世界で

窓の部分は透明で、店頭では透けて見えるものである。白と灰色を基調とするどんよりとした背景に対し、窓、細かな装飾、タイトル文字が美しくしかし儂げに輝き、コントラストが際立っている。背景も中央窓周辺にあたたかな光が差し込むようで、「救い」を感じさせる。美しいだけでなく、全体が見る人を引き込んで離さない雰囲気醸し出している。もの悲しさとあたたかさの入り混じる秀作。

優秀賞（名城大学附属 長谷川滯さん）二平方メートルの世界で

POPとしては大変よくあるタイプの、POPの王道を行く作品。全体の構成がやや散漫で、文字も詰め込みすぎなきらいはあるが、ともかくも主人公の大笑しの顔と、その楽しげな表情に、どうしても目が引き付けられてしまうであろう。人間は人の顔に特別の反応を示し、点が3つあるだけでも顔を認識してしまうものであるが、（計算の上かどうかはともかく）そうした特徴を利用した作品と言える。少女の服と左右の親の手の色もあたたかみがある。